

# 平成28年度日本臨床衛生検査技師会 中四国支部医学検査学会 (第49回)



# 土佐 からの 新風

～砕考・再構・最高～  
さいこう サイコー Bravo

**会期** 平成28年11月26日(土)～27日(日)

**会場** 高知市文化プラザかるぽーと

**学会長** 小倉克巳

<http://www.e-g.co.jp/jamt49chushi/>

主催:一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 担当:一般社団法人 高知県臨床検査技師会



## ■学会開催のご挨拶■

平成 28 年度日本臨床衛生検査技師会  
中四国支部医学検査学会(第 49 回)  
学会長 小倉 克巳



平成 28 年度日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会(第 49 回)は、(一社)高知県臨床検査技師会の担当で、平成 28(2016)年 11 月 26 日(土)・27 日(日)の2日間、「高知市文化プラザかるぼーと」および「トップワン四国」にて開催いたします。

本学会のメインテーマは「土佐からの新風」、サブテーマは「砕考・再構・最高(さいこう サイコー Bravo)」としました。しがらみにとらわれずに砕いて壊して考えるという意味で「砕考」という当て字を入れて、再構築する「再構」、そして「最高」といえるものを生み出したいという希望が、サブテーマには込められています。幅広い年齢層の臨床検査技師と幅広い臨床検査領域の関係者が集って意見交換ができる場所、そういう学会にしたいと考えています。

本学会は、特別講演(公開講座)には高知市出身の小説家 山本一力先生をお招きして「生き方雑記帖 2016」をご講演頂きます。また、学会長講演を復活させて「臨床検査の自動化に挑んだ 30 数年～砕考・再構は最高か?～」と題して、私の高知での 36 年間を振り返ります。教育講演Ⅰは宝塚市民病院消化器内科(消化器内科センター)副院長 阿部 孝先生に「小腸内視鏡と技師の役割」、教育講演Ⅱは熊本大学大学院生命科学研究部生体情報解析学分野教授 奥宮敏可先生に「遺伝性疾患に対する新規治療戦略と近未来の遺伝子医療」についてご講演頂きます。

また、日臨技企画Ⅰとして「術中モニタリング」をテーマに講演とパネルディスカッション、Ⅱとして「病棟業務」に関するミニシンポジウムが取り上げられています。さらに特別企画としてライブレクチャー2題とスライドカンファレンス、シンポジウム7題、ランチョンセミナー15題、一般演題 189 題、そして臨床検査技師養成校の8校が参加した「中高生のための職業紹介」が行われます。機器・試薬展示に関しては参加メーカーが 33 社で 45 小間(10/12 現在)、丸善雄松堂(株)の書籍販売と、盛り沢山の企画でお待ちしております。

さて、高知といえば、やはり「酒宴」。懇親会では、土佐の宴と恵まれた山の幸・海の幸、地酒をご堪能頂けたらと思います。末筆ながら、多大なるご支援ご協力を賜りました各県技師会役員ならびに会員の皆様、賛助会員の皆様に感謝申し上げます。

高知県臨床検査技師会会員一同、「おもてなしの心」で皆様のお越しを心よりお待ちしておりますので、多数の参加を宜しくお願い申し上げます。

## ■平成 28 年度日臨技中四国支部医学検査学会(第 49 回)の 開催にあたって■

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
代表理事会長 宮島 喜文



本学会が、一般社団法人高知県臨床検査技師会の小倉克巳学会長の下で、メインテーマを「土佐からの新風」～砕考・再構・最高～として盛会に開催されますことを会員の皆様とともにお慶び申し上げます。

また、日頃から一般社団法人日本臨床衛生検査技師会(以下、日臨技と略す)の活動に、ご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

我が国は2025年に超少子・高齢化のピークを迎え、医療や介護の需要が高まることから、さまざまな改革が進んでいる。特に医療においては「病院完結型」から「地域完結型」の医療供給体制の構築に向けて大きく舵がとられ、今後、都道府県単位での医療計画策定が進み各医療機関の病床機能の分化や在宅医療の確保が課題となってくる。

このような中、平成 26 年 6 月の第 168 回国会で成立した「医療介護総合確保推進法」で、チーム医療推進を図るために臨床検査技師等に関する法律(第二十条の二)に採血と並んで「検体採取」が、新たに医行為の一部が臨床検査技師の業務として認証されました。検体採取が可能となったことにより、患者に対して検査説明、検体採取、適正な検査、報告書の作成、検査結果の説明まで一連の検査業務を担い医師の診断に円滑に繋ぐ臨床検査技師に一日でも早く成らなくてはならない。具現化するものとしては、病棟検査技師や救急検査技師、在宅検査技師などと称されるものであり、これを確立するために、もはや、私たちは理論ではなく、実学として経験し、学ぶことの重要性を自覚し、周囲の理解を得る行動に移し、早速に第一歩を記す時期に来ているのではないかと。

一方、科学技術の進歩は目覚ましく、第4次産業革命と言われるロボット化や人工知能が臨床検査の領域に導入されることも遠い将来ではないであろう。これも私たちは視野に入れ、生涯教育を積んでいく必要があるが、日々においては実証データを分析し、常に客観的判断が下させる能力を身につけることが必要であり、その舞台となる学会発表には大きな意義があります。

本学会のメインテーマである「土佐からの新風」をテーマに進むべき方向性について考えていただくことは非常に有意義である。あわせて學術活動の更なる発展と日頃の研究成果を発表する場として参加される会員にとって実り多き学会であることを祈念申し上げます。

最後になりましたが、本学会を運営するにあたりご尽力をいただきました谷内亮水実行委員長をはじめ、高知県臨床検査技師会の皆様にご心より感謝申し上げます。